

令和元年度 第4回四万十市文化複合施設整備検討委員会

協議内容及び結果

【日 時】 令和元年11月26日（火）18:30～21:00

【場 所】 四万十市立中央公民館2階 研修室I

【出席者】（委 員）14名（事務局）11名

【協議内容及び結果（要旨）】

1 管理運営基本計画について

(1) 第2回議事要旨の確認

事務局より、第2回検討委員会での協議内容について概要説明。

(2) 管理運営基本計画の第2章・第6章（部分案）修正について

事務局より、前回出された意見等を踏まえ修正した箇所について説明。

主な修正箇所は、第2章の「事業方針」の中で、市民に集まってもらえる身近な施設となるよう「練習風景や活動風景などが外部から見える工夫をすることで、施設を訪れる人にとって、日常の文化芸術活動が身近に感じられ、新たな活動や、交流・賑いの創出につなげていくことが期待される」という文章を付け加える。

また、第6章「官民協働運営の可能性」において、「市民参加」という表現を「官民協働」という表現に修正するもの。

【協議結果】

事務局案のとおり修正する。

(3) 第3回管理運営基本計画市民ワークショップの報告

事務局より、11月5日に開催した第3回市民ワークショップについて、「ワークショップかわら版 vol. 3」にて説明。

26名の市民参加があり、「新しい施設の使い方を考える」をテーマに意見交換を行った。

(4) 管理運営基本計画の第3～5章（部分案）について

事務局より、「第3章 施設運営方針（案）」「第4章 施設管理方針（案）」「第5章 収支想定（案）」について説明。

[主な意見等]

- ・利用料金について、「近隣類似施設等の状況を踏まえて」とあるが、減免制度についても近隣の真似をされると言われたら困る。宝の持ち腐れにならないように、使いやすい料金設定を最初から考えていただきたい。また、ピアノも中高生にも手が届く料金で十分に使える機会があるほうが、ピアノのためにもよい。せっかくの良いホール、高いピアノも結局は市民には使えないものにとらえられないようにしていただきたい。

→（事務局回答）公共施設の利用料金について最近は受益者負担が原則で、減免はよろしくないという考え方が主流になっている。利用料金については管理運営実施計画で具体的な検討に入るが、使いやすい施設になることは重要であり、同時に皆さんが平等に利用できることが重要であると考え。その点を考えながら検討していきたい。

[協議結果]

宝の持ち腐れを無くすように、という考え方は大切。利用の柔軟性、顧客満足、運営効率などのバランスに配慮して今後議論していく。

第3～5章（部分案）については、事務局案のとおりとする。

2 基本設計について

(1) 第3回議事要旨の確認

事務局より、第3回検討委員会での協議内容について概要説明。

(2) 大ホールの座席数の方針について

事務局より、大ホールの座席数の方針について説明。

大ホールについては、850席程度の規模で進めている。その中で、市民から意見が多かった四万十らしさのあるホールにすること、座席の幅や機能を充実させること、音響のよいホールとすること、障害のある方にも優しいホールとすることなど、多くの観点からより快適な空間をつくると、固定席で800席程度になることも想定し、設計を進めている。

[主な意見等]

- ・建物を建てるのは何十年に1回。決断にリスクはある。しかし、皆の意見を聞いて平均をとったら魅力のないものにならないか。リスクを怖れて後悔することがないようにしていただきたい。
- ・ホールだけの施設でなく複合施設であり、全体を考えるとバランス的には850席程度がよい。

[協議結果]

座席数の議論だけでなく、委員会として、質なども含めて「どこにこだわって確

認したのか」という意見を出すことも重要であり、それらをまとめる議論をしていく必要がある。

- (3) 第3回基本設計市民ワークショップの報告について
- (4) 基本設計検討案の報告（平面・面積・諸室・ホール）
- (5) 市民座談会について

※(3)～(5)について、まとめて協議。

事務局より、11月21日に開催した市民ワークショップでの意見について報告。

また、現段階での設計案を説明。敷地測量図に平面を重ねたところ、既存の高知県農業協同組合幡多地区本館から線路側敷地境界までの距離が短く、客席の後ろのホワイエが細く狭くなり、もぎりからホワイエへ向かう部分にボトルネックができる。そこで、多角形型のホールを考えた。これにより舞台を囲む配置の客席となる。さらに、市民の皆さんから多くいただいた「席数よりゆったりした席」、「四万十らしい特徴のあるホール」、「小規模でも使えるホール」といった意見を取り入れた。客席内に床のレベル差を設けることで、色々な規模で使いやすいホールとなる。音響的にも中央に音が届きやすくなるという利点もある。席数を優先するのではなく席幅を確保し、全ての客席から舞台が見やすい設計を検討している。

11月27日開催の市民座談会では、この設計案に対し意見をいただくこととしている。

[主な意見等]

- ・なぜ800席なのか。800席が悪いというわけではないが、今まで1,000席と850席で議論してきた。進め方が不安になる。
→（事務局回答）席数は確定していない。四万十市の方向性として850席程度ということは決まっているが、市民ワークショップでの意見も聞き、850席にこだわらず検討したい、という中での検討案である。
- ・席数については昨年度から議論し、前回の議論で850席程度に収束した。今回もその延長での提案だとは思いますが、ワークショップの意見などから、席数よりも質にこだわった検討として、こうしたレイアウトはいかがか、という提案かと思う。設計について議論すべきなのは席数だけではない。
- ・ゆったりとした席や特色があるのは嬉しい。柔らかい雰囲気でも四万十らしい感じがして良い。
- ・市の計画として800席しかできないなら、先に言うべきではないか。
- ・850席程度の方向で、質を確保するなど他の条件を加えて、設計図に落とし込んでいくなかで800席になった、という今の進捗報告だと捉えている。
- ・面積は当初から決まっていたはず。最初から1,000席が無理というなら無駄な時間を費やさなくてよかった。

- ・計画が進行していく中で当初想定していなかったことも出てくる。設計のプロセスでは十分起こり得ることではないかと思う。
- ・市はそういう中でも真摯に対処していると捉えている。
- ・文化複合施設は3つの施設がひとつになる。ホールだけをつくるなら1,000席ができるのかもしれない。席を増やしたら席幅が狭くなるなど、設計の方もいろいろな検討をされているのではないか。これを見て、夢が湧いた、こういうものが出来るのか、と思えた。新しいものをつくっていくのだから、前向きな対話をもって臨んでいただきたい。
- ・敷地の実測結果、市民意見など色々な話から、今のベストなことを考えてくれている設計ではないか。
- ・検討委員会の立ち位置を再確認したい。ワークショップの意見を吸い上げ形にしたものを委員会に諮るという流れなのか。ワークショップが基礎にあり事務局が意見を拾い上げて（委員会とは関係なく）検討しているという立ち位置なのか。決定権は事務局にあるというのは筋だと思っはいる。
 - （事務局回答）検討委員会は皆さんからの意見をいただく場だが、あくまでも決定は市でさせていただく。検討委員会の前には、ワークショップを行い、それも委員会に報告して、それも含め議論していただく。それらを判断材料として市で方針を決めていく。管理運営基本計画と基本設計は市が最終決定をする。
- ・現在検討の席幅などは一般的な寸法に比べてどうなのか。
 - （事務局回答）一般的な幅500mmに比べて、1階席は530mm、2階席は510mm。前後ピッチも一般的な寸法950mmに比べて、1階席は960mm。
- ・一般的な寸法と5~6%の差から850席が800席程度になることはごく自然。一般的な寸法で計画すれば現計画をベースに850席は確保可能だろう。
- ・多い座席数を希望している方の中には最低でも850という期待があったはず。昨年の市長への提言書提出の時に、委員長も「できるだけ多く」とおっしゃってくださった。しかし一方では500や600という意見もあるのも現実だ。
- ・ゆったりした座席と言っても公演は2、3時間程度のこと。それならば座席の広さではなく席数を何とか確保したい。
 - （事務局回答）ワークショップでも多くの方から意見をいただき、より快適性を求めたホールにしたいと考えている。席幅、前後幅もとり、その中で800席に近い提案としている。
- ・850席という数字は大切にしてほしい。850プラス立見席という話もあった。ワークショップでの意見があったとしても850席は今まで検討委員会を重ねてきた議論の結果だ。できる範囲で850を確保してほしい。
 - （事務局回答）850席が確保できないわけではないが、ワークショップの中で、

例えば、障がい者の方も席を選べるよう配置をしてもらいたいとの意見もいただいた。車イス席は通常の座席で5席分とれるところが3席となるが、そういう配慮もした結果、800席程度となっており、市の方針として850席にゆとりをもたせて800席程度で計画したいと報告させていただいた。

- ・ 幡多地域で外部の方がイベントをするときに借りてくれる優位性について、850席が800席になることで選ばれなくなることはないか。

→（事務局回答）土佐清水市は864席、須崎市は固定席で848席、宿毛市は収容人数約1,000席。850席であることで有利であるとは特には感じられない。

- ・ 逆に800席で座席がゆったりすることが、他施設に比べ優位になる可能性もある。
- ・ 座席数の議論は完成してから何十年も使っていくうえでどこまで必要か。私の父は劇団で演出をやっていたが、足が悪くなり車椅子を使っている。今では何か観に行きたいと一切言わない。800席案を聞いたときに、色々な方がアクセスしやすい環境があり、心のハードルが下がる様な施設は素敵だと感じた。四万十らしさもそこにあるのではないか。ワークショップで多様性と言ったが、四万十川は、子供が泳いだり、釣りをしたり、風景を見たり、菜の花を見たり、足が悪くて河原に行けなくても遠くから眺めたり、屋形船に乗ったりなど、多くの方がそれぞれの楽しみ方をできる空間、様々なアプローチができるのが魅力ではないか。これまでの議論を真摯に受け止める必要もあるが、一方では未来を見据え、違ったところの価値も考えてみることも必要ではないか。

[協議結果]

座席数の方針は850程度とするが、より四万十らしいことを考えると800席程度でもよいのではないかという事務局案と、今までの議論からも850席をおろそかにしてほしくないという意見、これらを踏まえながら進めていく。利用者としての考え方、四万十の未来を見たときの関わり方、両面から私たちに最もよいのは何かを考えていく。